

ふくしま県人会だより

第39号
平成31年1月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会長

新年あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 田中 四郎



新年明けましておめでとございます。各県人会員の皆様には、輝かしい新年を健やかに迎えのこ
ととお慶び申し上げます。日頃は、
連合会行事に御支援と御協力を賜
り厚く御礼申し上げます。

昨年は行事として、丸八年振りの
母県訪問旅行を実施できました。私
事ですが、六月には、両陛下御臨席
のもと、南相馬市原町で開催されま
した全国植樹際に参列しクロマツ
を植樹してまいりました。

京都清水寺貫主は、昨年の漢字に
「災」という字を選ばれたように、
全国で自然災害が多く発生いたし
ました。西日本豪雨では、岡山県真
備町が大水害の被害を受け、北海道
も九月に、北海道胆振東部地震が発
生して、それに二日間に渡り全道全
域停電が重なり大災害となりました。
札幌の清田区里塚も地盤の沈下
により六十世帯の住宅倒壊が起き、
住民が避難生活を余儀なくされま
した。災害は、国内だけでなく、ス
マトラ沖の津波のように外国でも
大災害がありました。

昨年度の後半に母県では知事選
挙がございました。十月二十八日の
投票結果は、内堀知事が県民の大多
数の賛同の票を獲得し再選をはた
され、第二期目の県政を担うことと
なりました。内堀知事には誠におめ
でとございます。

また、改めて母県訪問旅行を計画
いたしますので、各県人会の皆様は、
東日本大震災以後の県内インフ
ラの復旧復興と観光地が元にもど
りつつある「新生ふくしま」を訪ね
てみようではありませんか。

終わりに、本年五月十八日開催の
連合会総会及び懇親会の為に旭川
県人会の皆様が只今、準備を進めて
おります。

年に一度、全道の会員の皆様が一
同に集う会であります。是非とも、
旭川に足を運んで下さるようにお
願い申し上げます。皆様にとりまして良
き年でありまして、御祈念申し
上げまして新年の御挨拶といたし
ます。

福島県知事

新年あいさつ

「情熱を胸に、挑戦を続ける」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私は、昨年十月の知事選挙におき
まして、多くの県民の皆様のお支持
を頂き、引き続き県政を担わせてい
ただくことになりました。皆様から
伺った様々な思いを自分の中心に
据え、福島未来を切り拓くため、
これからも全力で取り組んでまい
ります。

未曾有の複合災害からの復興と
急速な人口減少に対応するための

地方創生という、困難な課題に真正面から取り組むためには、常に危機意識を持って、挑戦を更に進化させなくてはなりません。

まず、避難地域の復興・再生につまましては、被災者の生活再建や産業の再生、廃炉・汚染水対策、医療・介護提供体制の構築、学校の再開、公共交通ネットワークの構築、さらには鳥獣被害対策など、安心して帰れる環境づくりを進めてまいります。

併せて、福島イノベーション・コースト構想に地元企業等の幅広い参加を頂きながら具体化を更に進め、再生可能エネルギーやロボットを始めとする新産業の創出・集積や農林水産業の再生など、浜通り地域の産業基盤の回復にしっかりと取り組み、商工業を始めとした既存産業の振興につつましても、人材の育成や確保を始め、産業の足腰を強化するための支援を行ってまいります。

次に、人口減少対策につつましては、定住・二地域居住や雇用の場の創出を進めるとともに、安心して結

婚・出産・子育てができる環境の充実に向け、十八歳以下の医療費無料化の継続や待機児童対策、教育環境の整備など、総合的な施策を講じてまいります。

また、医療・福祉・介護の人材確保・育成や全国に誇れる健康長寿県を目指す取組を引き続き積極的に進めてまいります。

二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックにおいては、選手村等への県産食材提供を目指す農林水産物のGAP認証取得や、大会で活用を目指す再生可能エネルギー由来の水素を製造する拠点整備を進めるとともに、これまでの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島の姿を国内外に広く発信できるよう、関係の方々を合わせて準備を進めてまいります。

県民の皆様、そして福島を応援してくださる全ての方々「共働」しながら、挑戦を続け、生まれて良かった、住んで良かった、来て良かった、と思っただけの県づくりを進めてまいりますので、今後とも、

一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。

会員通信

第三十六回道東地区観楓会に参加して

美幌町福島人会

事務局長 大竹 啓

今やすっかりお馴染みになった三地区合同観楓会が川湯温泉北ふくろうで開催されました。別海町県人九名、美幌町県人会十一名、遠くは福島県北海道事務所二名、年々参加等が減少しつつあり、当年は浜中町県人会が全員不参加となり残念です。ちよつと寂しい観楓会であり、三十一年は全員参加されることをお祈りいたします。

また、参議院議員若松謙維様、北海道議会議員高橋文明様、福島県人会北海道連合会会長田中四郎様より祝電祝辞をいただき披露させていただきました。有難うございました。

た。

十三時三十分からゲーム開始スカットボール、お手玉、ダーツに挑戦。四苦八苦の結果は優勝者男性別海町県人会渡辺栄顕会員、女性は美幌町県人会照井歌子会員、二名の者は美幌町県人会会長近藤康弘から賞状と記念品が贈呈されました。宴会会場では故郷の想い出話に花を咲かせて二時間あまりが過ぎ次回の開催は別海町県人会に決定、バトンタッチし、最後に北海道踊りで幕を閉じました。



【合同観楓会の様子】

さて、母県は聖火リレーのスタート地点に選ばれました。全競技に先駆けて福島県営あづま球場でソフトボールの開幕戦も行われます。ギリシャで採火した聖火を復興の火として福島、宮城、岩手の被災三県で復興の姿を世界に発信してください。母県ガンバレ頂点はすぐそこだ。

昨年は九月六日に発生した北海道胆振東部地震の影響で停電が続きました。現代生活における電気のありがたさを改めて感じたのではないだろうか。それにしても現代人の脆さが如実に露呈しました。二十四時間闇中でした。

このたび地震により被害を受けられました皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。

美幌福島県人会「新年役員会」開催に寄せて、

美幌町福島県人会

副会長 吉田 孝

新年明けましておめでとうございます。います。

平成最後の節目の年に、当美幌町福島県人会は今年、創立四五周年を迎えることになりました。

平成三十一年一月五日美幌グラウンドホテルで役員会（十名参加）を開催しました。

冒頭、「福島県北海道事務所OB」様から昨年の地震に伴う被害に対して多額の御見舞金を頂いた事の報告を近藤会長から聞き、私どもよりまだまだ被害の大きかった方が居られるのにも思いつながらも、改めて感謝しております。大変有難うございました。

さて役員会では、美幌町福島県人会創立四十五周年に伴う記念の総会開催場所日時の決定に続き、総会資料作成、総会出席者への案内状の作成等も決めました。

更に総会席上にて美幌町福島県人会の長年の発展に寄与された方々を表彰する事になり、人選については会長に一任する事になりました。

又、今年の四十七回福島県人会北

海道連合会総会が旭川市のアートホテル旭川で開催日時の決定をへて、参加費用の設定、レンタカーの予約等もし、参加者を一人でも多く募る事にしました。各地区から元気な顔で再会できる事を楽しみにしております。

高齢化社会の一向で美幌町福島県人会会員の減少が課題ではありますが、新会員の増強に会員一致協力し合う事を確認して役員会を終了しました。その後ささやかな懇親会を開催、親睦を深めた後、出席役員の記念写真を撮り有意義な役員会を解散しました。

皆様各地区で、本年の更なる御活躍と御健勝を御祈念申し上げます。

「秋の夜長を楽しむ会」を開催

函館福島県人会

事務局長 菅野 広道

例年秋に開催している「パークゴルフ大会」が昨年は天候不順等により見送りとなりました。それで代わ

りに十月二十六日（金）に「秋の夜長を楽しむ会」を開催し（於…魚来亭）、会員の交流を図りました。当日は会員十一名が参加、初めに会員の笹原志郎さんから先祖が会津から北海道に移住し開拓に当たった話をしていただきました。その後ふるさとの銘酒を味わいながら互いに近況や母県のニュースを語り合ったりして秋の一夜を楽しみました。



【総会での集合写真】

新年を迎えて

千歳福島県人会

会長 五島 洋子

輝望あふれる新年を迎え、おめでとうございます。

昨年は、千歳福島県人会が、第四十六回北海道連合会総会担当地域として重責を担いました。皆様に喜んでいただけるようにと願うばかりでした。おいでいただきました皆様、ありがとうございます。お陰様で、会員一人一人の総合力で、成果に終えホッとしたところです。川俣の佐藤町長様からの差入れ、川俣軍鶏のおいしさは絶品でした。心から感謝申し上げます。

福島民報の元旦号が届きました。平成最後の天皇陛下全国植樹際に読まれたお歌「生い立ちて防災林に育てよとくろまつを植う福島の地に」思いを受け、新しい元号の年を歩み出す。内堀知事の「生まれてよかった」「住んでよかった」「来てよかった」と思っていただける県づくりに挑戦していくとの情熱、又、各分野で「日本一の福島を目指す」と

いう年間スローガンの意気込みが紙面にあふれていました。日本酒六年連続日本一も郷土の誇りです。北海道にはPR不足と感じます。困難を乗り越え、決して負けない、あきらめない、福島の県民魂を感じます。

千歳県人会も、母県と心合わせ、奇跡的に巡り会った県人会の仲間達と共に新会員の増強を図り新たな目標で故郷に貢献できる魅力ある県人会を目指し努力します。

本年もよろしくお願い申し上げます。



【新年会での集合写真】

県人会創立三十周年記念式典・祝賀会開催

苫小牧福島県人会

事務局長 大槻 正吾

当県人会は、平成元年に創立し昨年九月七日で三十周年を迎えました。式典前日（六日）に胆振東部地震が発生し、苫小牧でも震度五強の揺れを感じ、道内各地がブラックアウトに見舞われる等、開催が危ぶむ状況となりました。

近隣の厚真町では三十数名の死者が出る大惨事となりましたが、会場ホテルは午後に通電があり、翌日の式典等は開催できるとのことであつたが、被害に遭われた多くの方々の心情を思うと開催すべきか迷いましたが、ホテルの事情もあり結局予定通り開催することに決定をしました。

来賓の苫小牧市長は、市の災害対策本部が設置されたため欠席され、県北海道事務所長についても、交通機関が全て不通となり欠席となりました。

記念式典は、定刻十七時より、冒頭、今回の地震の犠牲者、東日本大震災の犠牲者、死去された会員の皆様のご冥福をお祈りし黙祷を捧げ開会となりました。

来賓としては、苫小牧東北六県の県人会の会長等が臨席され、欠席された岩倉苫小牧市長及び長谷川県北海道事務所長のメッセージを角田理事が読上げ、また、永年に亘り当県人会に対して功績のあつた神野会長ほか六名の会員に感謝状及び記念品を贈呈しました。

祝賀会は、吉成幹事長の司会で始まり、このような状況に鑑みカラオケを使用しない静かな祝賀会となりましたが、それでも三十年間の思い出を語りながら楽しい時間を過ごすことができました。最後に神野会長の「ハーモニカ伴奏で毎回歌われている「ふるさと」を全員で斉唱し、遠藤顧問の方歳三唱で閉会となりました。

今回、岸本理事の提案で、前日発生した胆振東部地震の義援金を会場内で急遽呼びかけたところ、三万二千四百五十六円の募金が集まり、

早速十日に渡辺副会長と事務局が
苦小牧民報社に県人会と併せて五
万円寄託しました。



【苦小牧福島県人会創立30周年記念式典祝賀会での集合写真】

思い出の旅

別海町福島県人会

事務局 大内 照雄

私も、一人の人間だ。楽しいこと、
又、辛い悲しいこと、人間はそれぞ
れ人によって数多くあるものです。
その度に、悩み、苦しみ、辛さを克

服する力が、湧いてくるも自分なり
に關心をします。

人生の後半になっての今、何処ま
で元気な体力を、維持できるのか、
その保障は神様でも分かるはずは
ありません。五十数年、連れ添った
夫婦が共に足腰、達者で大丈夫な体
は今しかない。そういう思いの一年
でした。

一月県人会新年会から始まり、三
月当県人会総会、三月義兄の葬儀
(茨城県古河市)三泊、五月県人会
連合会(千歳市)一泊、六月入り遺
族会、北海道護国神社大祭(旭川市)
三泊四日、帰宅後翌日、私の仲間
退職者の会P.G大会(鶴井村)一泊、
六月中旬になって、子供達つれての
公民館分館行事担当、バスにて汐千
狩(尾岱沼)、終了即中旬、今度は
結婚式にて軽井沢市(長野県)二泊、
終了後、軽井沢から、しばらく振り
に名古屋で暮らす大姉(九十八歳)
会いに、元気だった安心、今はまだ
自分でできるとき、ああ良かったね。
白寿まで頑張つてと勇気付け、それ
から三重県伊勢市、鳥羽市、と観光、
伊勢神宮参拝、三泊、記念に真珠の

お土産を奮発、延べ軽井沢含め五泊
六日の旅行でした。



【三重県鳥羽市のミキモト真珠島での記念写真】

その間、北海道の気候は雨、曇り
で低温、丹精こめたハウスの中は無
残にも、成長が止まったまま。残念
また今年も駄目か。

十月上旬、県人会合同観楓会一泊
(川湯温泉)、公民館行事で、寿大
学の一泊研修旅行(北見市)、十一
月中旬、娘夫婦と四人で、紅葉の京
都、比叡山、嵐山、各神社、お寺め
ぐり観光、何処も時代の掛かった、
手入れの行き届いた古風な日本庭
園。



【金閣寺での記念写真】

京都ならではの古風な屋根と屋
根、家との狭い路地、といったら公
然の道路だと、運転手に言われ、京
都の町は、外国人も含め大勢の観光
客、これが京都、そこをすいすいと
走り、一般車も入れない奥まで見事
な運転。嵐山泊、翌日は、トロッコ
電車、保津川くだり、レンタカーで
大津市(雄琴温泉)泊。びわ湖が一
目で展望できる、びわ湖テラス(打
見山一八〇m)山頂、びわ湖大橋
経由して、近江八幡市、城下街で商
人の街として栄えた。これまた古民
家の茶店、古い時代の民家見物観光。
宇治市では、五百年も続く代々のお

茶屋の専門店、宇治茶はここが本舗、また壺万円札の裏の鳳凰はこの平等院（鳳凰）だったのだ、感心。歴史が違う。

そんな四泊五日の旅でした。北海道に入った途端、何も変わっていない。いつも見慣れた殺伐な風景。今は、そのアルバムを整理しながら、静かに眺め二人で思いに更けているところです。

福島県人会の絆

～元県人会員からの便り～

札幌福島県人会

幹事 伊藤 忠孝

昨年は一月に札幌。パークホテルで開催された札幌県人会総会・懇親交流会、五月に千歳市の「ホテルグランテラス千歳」で開催された第四十六回福島県人会北海道連合会総会・懇親交流会、七月福島県からの「福島県くだもの消費拡大委員会」・「ミスピーチキャンペーンクルー」の皆さんを迎えての札幌懇談会、十月定山溪温泉での長谷川福島県

事務所長を迎えての観楓会、十二月の役員会に出席して札幌県人会や道内各地の県人会の皆様と懐かしい故郷や道内での県人会での出会い、生まれ育った福島県の現状など美味しい酒を飲みながら歓談し、交流を深めました。一年経つのは早いもので、新年を迎えてもう目の前に三十一年度札幌県人会総会・懇親交流会が迫っております。

平成最後の新年を迎えて、一番の楽しみは、お神酒を頂きながら集まった家族でおせち料理を食べ、会津から送られて来たお酒を飲み交わすことがいつものこととなつていきます。そして、年賀状が届くのを待っているのも、もう一つの楽しみです。

その中に、必ず福島県人会への想いを自筆で添え書きして来る年賀状があります。福島県南エリアに住まわれているT・Yさん、Y・Yさんご夫婦です。県人会との繋がりが途絶えた三十五年前、当時県人会事務局をされていた方で、このご夫婦との繋がりは途絶えることなく続いています。十五年程前故郷に帰

られ、T・Yさんは亡くなられたが何時も県人会の事が書かれており、亡くなられてからはY・Yさんがやはり自筆で「福島県会がなつかしくおもいます」、「県会も大変なことだと思います」、「県会もますます盛んになっていくでしょう。懐かしく思います」、「（北海道に帰り）県会で植樹した記念場所に行きました」、「（県人会で（夫婦）二人で本を配ったり、旅行に行ったりとか懐かしく思い出します」などと書き込まれ送られてきます。

北海道に居れば福島の故郷が懐かしく想われ、故郷の福島に帰れば北海道の県人会の事が懐かしく想われる。福島県人会の会員だったからこそその想いでなかるうかと思つていきます。私自身、一人で故郷の福島へ会津を想うのと県会に入つてからの想いは、ちょっと違つてきています。感じています。会津という生まれ故郷のみでなく、広く福島県を故郷と思う気持ちが強くなったように感じていきます。それぞれ、福島県の異なった地域を故郷に持つ会員の集まりである県人会の繋が

り・絆がそうした想いを育ててくれたのだと思います。

今年、己亥のY・Yさんの年賀状「福島県人会がなつかしくおもいます」を読んで思つたこと、感じたことを書きました。

新会員の紹介

函館県人会

川股 久美子 様(出身 本宮市)
久保田 節子 様(出身 本宮市)

旭川県人会

佐藤 淳一 様(出身 福島市)
矢吹 三男 様(出身 平田村)

千歳県人会

丹治 和典 様(出身 福島市)
渡邊 加代子 様(出身 相馬郡)
佐川 栄子 様(出身 相馬郡)
橋本 義仁 様(出身 二本松市)

苫小牧県人会

吉成 三枝子 様(出身 棚倉町)
石田 英人 様

福島県からのお知らせ

福島県産農産物等PRイベント

「ふくしまプライド。ヨ 北海道・冬」を開催しました



【ステージイベントの様子】

平成三十一年一月二十九日（火）に、札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）北三条交差点広場（西）にて福島県産農産物（あんぽ柿、いちご）に、しゅんぎく」と観光をPRするイベントを開催しました。イベントには、ミスビーチ（佐藤梨央さん）やHARRYふくしま隊が駆けつ

け、あんぽ柿のおいしさや福島県の魅力についてアピールしました。あんぽ柿をイメージしたバルーンアートで装飾したステージでは、HARRYふくしま隊によるパフォーマンス、道内で活躍するMy, sによるライブ演奏を行いました。旬を迎えたあんぽ柿の試食提供や、札幌福島県人会の協力によるあんぽ柿やいちご、ままだおるなどの物産販売、ふくしまの酒（人気酒造）の販売を行うとともに、観光パンフレットの配布を行い、福島県のPRを行いました。



【にら・しゅんぎくの配布】

「福島県北海道事務所OB見舞金」について

平成三十年九月六日に発生した北海道胆振東部地震に際し、福島県北海道事務所OBの方々から、「福島県人会北海道連合会に見舞金を送り活動を支援しよう！」という声が挙がり、二十四名の方から計二十二万五千円の見舞金をいただきました。

いただきました見舞金については、平成三十年十二月二十一日に開催した福島県人会北海道連合会役員会において、各地区福島県人会へ配分し、それぞれ活動に充ていただくことで決定し、平成三十一年一月二十二日に各地区福島県人会の口座に振り込ませていただきました。

ここで、呼びかけ人の一人であります河野郷第十四代所長からのメッセージを御紹介させていただきます。

こんにちは、第十四代所長を務めました河野でございます。ご無沙汰

いたしております。

昨年九月六日に発生した北海道胆振東部地震により、甚大な被害を被られました福島県人会北海道連合会会員の皆様方には、心よりお見舞いを申し上げます。

特に被害の大きかった厚真町、安平町、むかわ町は北海道在職中何度か訪れた地であります。そこには美しい山々、私の大好きなこれぞ北海道といった特有のたたずまいを見せる住居が並んでおりました。その山々が一瞬にして崩れ落ち、住居が飲み込まれた光景がテレビに映し出されました。また、真駒内の公舎からの通勤途上、車上からいつも見えていた清田区、その一部地域が液化現象により家々が沈み、傾いている様子を目の当たりにしたときには、本当に心が痛みました。

幸い、県人会の皆様方、またご家族の方々もご無事であると伝え聞きましたときには、心からホッ！と安堵いたしました。

皆様方の被災の状況を知った北海道事務所OBの中から、日頃、何かと福島県のことにお気遣いいた

だき、特に東日本大震災の原発事故で、福島県から北海道に避難した人々に対し、献身的にご支援下さった県人会の方々に、「今度は我々から何か支援できないか」との声が上がりました、このたびお見舞い金という形で支援させていただいた次第であります。

私は北海道から福島県に戻り十六年が過ぎようとしておりますが、いまもなお、たくさんの方の県人会の皆様方が、意気軒昂にご活躍なされていと聞いております。

母県訪問、県産農産物の消費拡大や風評被害払拭、県の観光PRなど、これからも福島県の応援よろしくお願ひ申し上げますとともに、なお一層お元気で、福島県人会発展のためにご活躍されますようご祈念申し上げ、今回の発起人の一人としてご挨拶させていただきます。

平成三十一年一月

現職(公) 日本植物調節剤研究協会
福島試験地 主任
河野 郷



【第14代所長 河野 郷氏】

福島県公式イメージポスター「来て」ポスター一八及び市町村版「来て」ポスターを無償で提供しております。

本県に対する理解促進と関心を高めていただく契機となるよう、福島県クリエイティブディレクター 箭内道彦氏による監修のもと、福島県の魅力と今を伝えるため、インパクトのある五種類のイメージポスターを作成いたしました。

また、「来て」のポスターについては、市町村と力を合わせた「共働」により、県内の様々な風景を映した方部別のポスターも作成しており

ます。

風評払拭や風化防止に向けて、過去最大規模の枚数で作成し、本県を応援いただける県内外の企業や商店、団体、自治体等の皆様に数多く掲出いただけるよう無償で提供しているところです。

会員の皆様で御協力いただける方がいらつしやいましたら、当事務所まで御連絡くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。(B1・B2サイズそれぞれ一枚から受付しております。)

福島県公式イメージポスターを無料で配布中です!



福島県の今を、魅力と、思いを込めて、
県クリエイティブディレクター 箭内道彦氏監修のもと、
12種類のポスターを作りました。

たくさんの方に、「ふくしま」を見て、感じて、楽しんでいただくために、
どうぞほんの少しだけ、力を貸してください。

このポスターを貼ってくださるみなさまを募集します。

